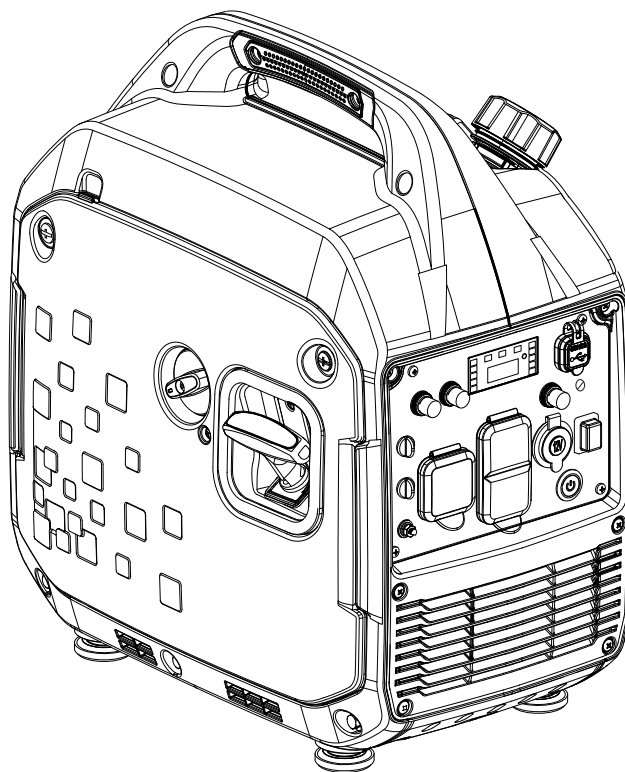




【品番:55642】

DAYTONA®

ポータブルインバーター発電機 取扱説明書



何かお困りの際は、下記窓口までお気軽にお問合せください。



お問い合わせ先（ナビダイヤル）

0570-055-819



インターネット受付窓口

<https://www.daytona.co.jp/contact/form.php>



●当社営業日のみ受け付けております。受付時間 10:00-17:00（月～金）

※祝祭日、当社研修等の臨時休業日を除きます。

- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。
- この商品を第三者に譲渡する場合は、必ずこの取扱説明書も併せて必ずお渡しください。
- 取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任は負いません。
- 商品の保証については保証書裏面の保証規定に沿って行ってまいります。
保証内容をご理解のうえ、この取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

【 目 次 】

1.	安全にお使いいただくために	P.3
2.	使用可能範囲	P.5
3.	開梱と同梱品リスト	P.6
4.	各部の名称と取り扱い	P.7
5.	運転操作	P.12
	▪ 運転前に	
	▪ エンジンの始動	
	▪ 電源の取り出し方	
	▪ エンジンの停止	
	▪ マルチディスプレイについて	
6.	点検・保守・保管	P.19
	▪ ①. 始業点検	
	▪ ②. 保守（定期点検）	
	▪ ③. エンジンオイルの交換	
	▪ ④. 点火プラグの点検と調整	
	▪ ⑤. キャブレター残燃料排出	
	▪ ⑥. エアフィルター清掃	
	▪ ⑦. 保管（一時保管・長期格納）	
7.	故障診断	P.26
	▪ エンジンがかからない	
	▪ 電気が出していない	
8.	製品諸元表	P.27
9.	製品回路図	P.28
10.	リモコン電池の交換方法	P.29
11.	パーツリスト	P.30

1. 安全にお使いいただくために

■ ご使用前に必ずご確認ください ■

※取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任は負いません。

※商品の保証については保証書裏面の保証規定に沿って行ってまいります。保証内容をご理解のうえ、この取扱説明書と一緒に保管してください。

※本書では正しい取り付け、取扱方法および点検整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

警告 要件を満たさずに使用しますと、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

注意 要件を満たさずに使用すると、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



実施

行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



高温注意

表記の注意を告げるものです。



禁止

禁止の行為であることを告げるものです。



火気厳禁

表記の注意を告げるものです。



警告



禁止

- ✓ 燃料補給を屋内や換気の悪い場所で行わないでください。ガソリンは非常に燃えやすく、爆発や火災の危険があります。給油はエンジンを停止させてから行ってください。万一燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取って乾かしてからエンジンを始動してください。また、給油中は十分に火気に注意して行ってください。
- ✓ 排気ガスには有毒な成分が含まれています。車内や室内など閉め切った倉庫や車庫の中等の換気の悪い場所や風通しの悪い場所での使用はしないでください。一酸化炭素中毒等により死亡又は重度の後遺障害の恐れがあります。
- ✓ 使用中、使用後のマフラー部は非常に熱くなっております。マフラー高温時には、マフラーに触れないでください。火傷をしたり衣服を焦がしたりする危険があります。また、高温の時は絶対にガソリンや引火性のあるワックスやクリーナー、塗料などのケミカル製品をマフラー等に垂らしたり吹き付けたりしないでください。火傷や本機の損傷、火災の原因となります。
- ✓ 電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。本機に接続された電気機器が故障、火災や人身事故の原因となります。
- ✓ 箱を被せたり、周囲を囲ったり、上に物を乗せて使用しないでください。
- ✓ 濡れた手での操作、金属物をコンセントに差し込んだりしないでください。感電の恐れがあります。
- ✓ 運転中の点検整備、部品を改造したり、部品を外したまま使用しないでください。感電やけがの恐れがあります。
- ✓ 使用可能な場所かをご確認の上、使用ください。キャンプ場、イベント会場等では使用禁止のルールがありますので予めご確認の上ご使用ください。
- ✓ 本機に子供やペットが触れないようにし、安全な場所で運転してください。

⚠️ 注意

【火災のおそれあり】

- ✓ 発電機を使用する前に周囲にある危険物(油脂類、火薬など)や燃えやすいもの(紙くず、わら、枯れ草等の可燃物)を除去してから使用してください。
- ✓ 定格出力を超えた状態(過負荷)での使用はしないでください。
- ✓ 屋内配線に接続しないでください。
- ✓ マフラー高温時にカバー等を掛けしないでください。

【感電やけがのおそれあり】

- ✓ 傾斜させての運転、運転中の本機移動、濡れた手で操作、金属物をコンセントに差し込んだり、しないでください。
- ✓ 熱くなっているマフラーやエンジン各部を触らないでください。やけどや怪我の原因になります。
- ✓ 運転中でのプラグコード、プラグキャップや点火プラグは絶対に触らないでください。
- ✓ 運転中の点検整備、部品を改造したり、部品を外したまま使用しないでください。
- ✓ 子供には絶対に使用させないでください。
- ✓ DC12V はバッテリー充電以外に使用しないでください。
- ✓ 雨や雪の中での、使用はしないでください。電装部品の事故やショートが起きる原因となります。また湿気や凍結により、使用時に感電する原因となります。
- ✓ 取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをしたり、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因になります。



実施

【故障のおそれあり】

- ✓ 使用するガソリンは必ずレギュラーガソリンを、規定容量を守ってご使用ください。混合ガソリンは使用できません。
- ✓ 補修部品、消耗品(エンジンオイル、点火プラグ)等は必ず推奨品をご使用ください。
- ✓ 長時間保管の場合は必ずメインスイッチを OFF の状態で保管してください。ON のまま長時間放置するとバッテリー上がりの原因になります。



法令違反

- ✓ 燃料を補給する場合には消防法に基づいた容器から行ってください。
- ✓ エンジンオイルを交換後、廃油は地面や排水溝などに捨てずに、環境保護のため法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルを購入されたお店にご相談ください。
- ✓ 本機を廃棄される際は、環境保護のためお買い上げになったお店や、お住まいの自治体へご相談ください。



その他

- ✓ 毎回使用前には、始業点検の実施、また定期点検も必ず行ってください。
- ✓ 本機を自動車等で運搬する場合は、しっかりと固定し倒れないようにし運搬してください。
- ✓ 使用中に異音、臭い、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。
- ✓ この商品は、予告なしに価格や仕様の変更をすることがあります。また、本文中で紹介した商品についても同様です。あらかじめご了承ください。

2. 使用可能範囲（この発電機で使える範囲）

■ ご使用前に必ずご確認ください ■

- ※ ご使用前に、使用する電気器具の消費電力(W)をお確かめの上ご使用ください。
- ※ 再度、使用したい電気機器の消費電力と起動電力を確認します。電気機器によっては、始動時に消費電力よりも大きい電気を必要(消費電力の3~4倍もの電力が必要)となることもありますので、ご注意ください。
- ▶ 【消費電力】〇〇〇W(ワット) → その電気機器が消費する電気のことです。
 - ▶ 【起動電力】〇〇〇W(ワット) → その電気機器の始動時のみに必要とする電気のことです。
 - ▶ 消費電力【1000W】 = 定格出力【1kVA】 ※この発電機の定格出力は、2.7kVAです。



警告



禁止

✓ 発電機の使用可能範囲を超えると、発電機とそれに接続されている電気機器類が損傷します。

電気機器	消費電力(W)	起動電力(W) ※参考値	消費電力に 対する倍率
液晶テレビ(27インチ)	80	100	約 1.3 倍
ノートパソコン	20	20	約 1 倍
扇風機(家庭用)	50	100	約 2 倍
炊飯器(家庭用)	1300	1300	約 1 倍
電気ポット	1000	1000	約 1 倍
小型冷蔵庫(家庭用)	100	400	約 4 倍
大型冷蔵庫(家庭用)	250	1000	約 4 倍
ホットプレート	1300	1300	約 1 倍
コーヒーメーカー	650	650	約 1 倍
電子レンジ	1000	1800	約 1.8 倍
電気ドリル	300	600	約 2 倍
ハロゲンライト	250	500	約 2 倍
電動丸ノコ	600	1200	約 2 倍
水銀灯	400	1600	約 4 倍
高速カッター	1450	3300	約 2 倍



注意

- ✓ 電動工具等のモーターを使用した機器や、起動電流が非常に大きい機器については、【過負荷警告灯】が表示され使用できない場合があります。
- ✓ 使用する機器の負荷や特性によって発電機出力と合わない場合がございます。
- ✓ 上記が発生した場合、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

3. 開梱と同梱品リスト

■ 開梱 ■

2人以上の成人で、箱から発電機を慎重に取り出し、強固で平らな場所に置いてください。必ず箱の中にある本機と付属品は取り出してください。

全て取り出すまで箱を廃棄しないでください。下記の同梱リストをチェックし全ての部品と付属品が揃っていることを確認してください。

部品が不足または破損している場合は、下記窓口までお気軽にお問合せください。



お問い合わせ先（ナビダイヤル）

0570-055-819



インターネット受付窓口

<https://www.daytona.co.jp/contact/form.php>



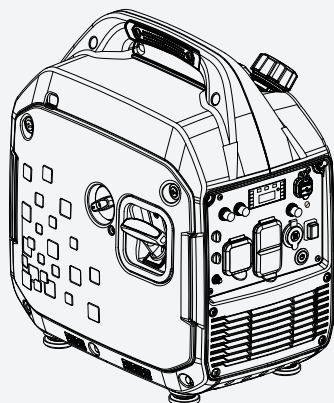
●当社営業日のみ受け付けております。受付時間 10:00-17:00（月～金）

※祝祭日、当社研修等の臨時休業日を除きます。

本製品のリモコンに使用されているボタン電池は、テスト時に使用される一時的な電池です。使用中に電池が切れる可能性があります。リモコンのボタンを押してもLEDライトが点灯しない、または反応しない場合は、付属のボタン電池と交換してください。

■ 同梱品リスト ■

本機



発電機

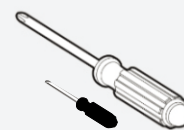
付属品



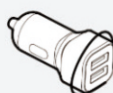
レンチ (8/10mm)



オイルジョウゴ



ドライバー



シガーソケット



点火プラグソケット



リモコン



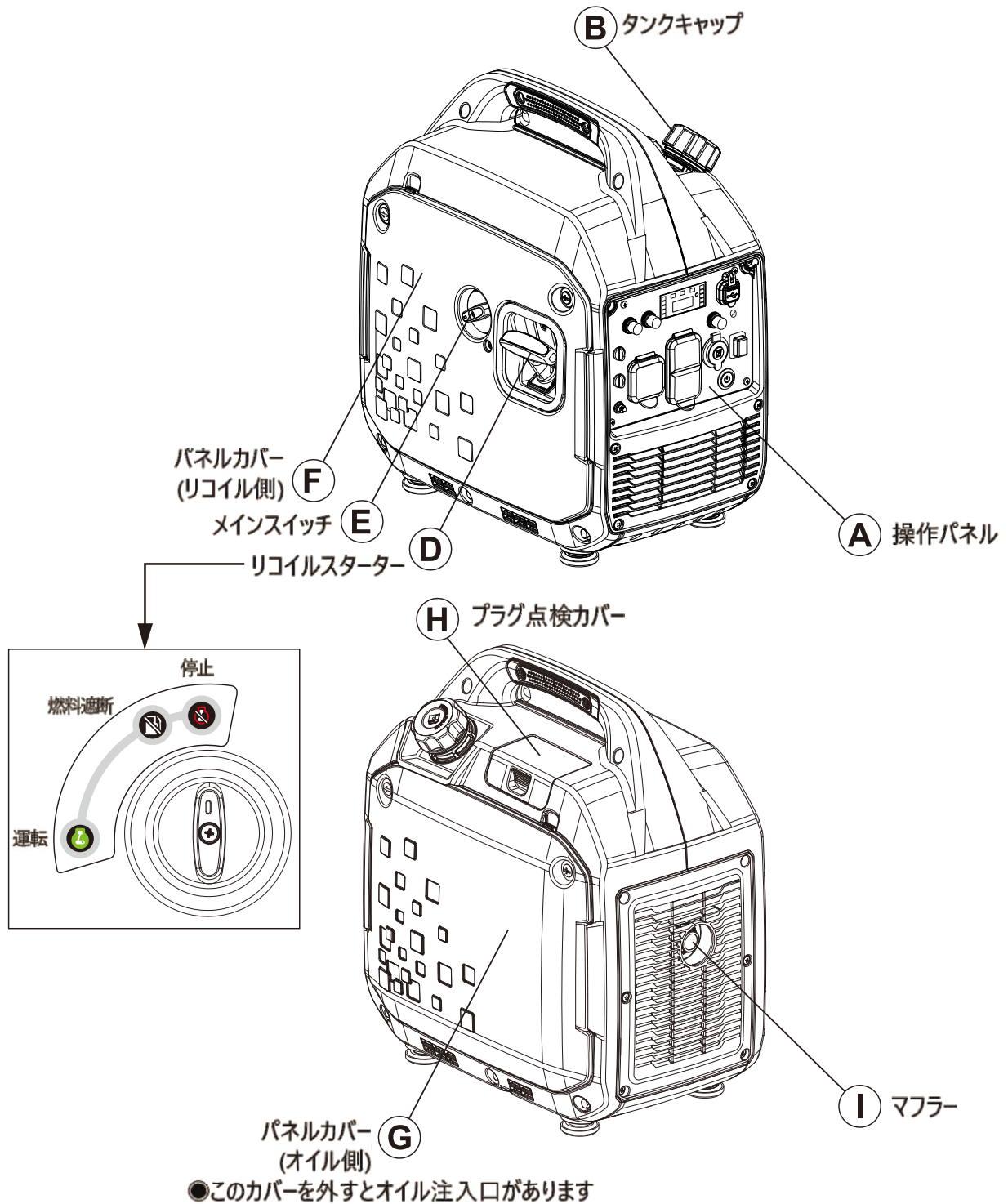
パネルノブ(2ヶ)



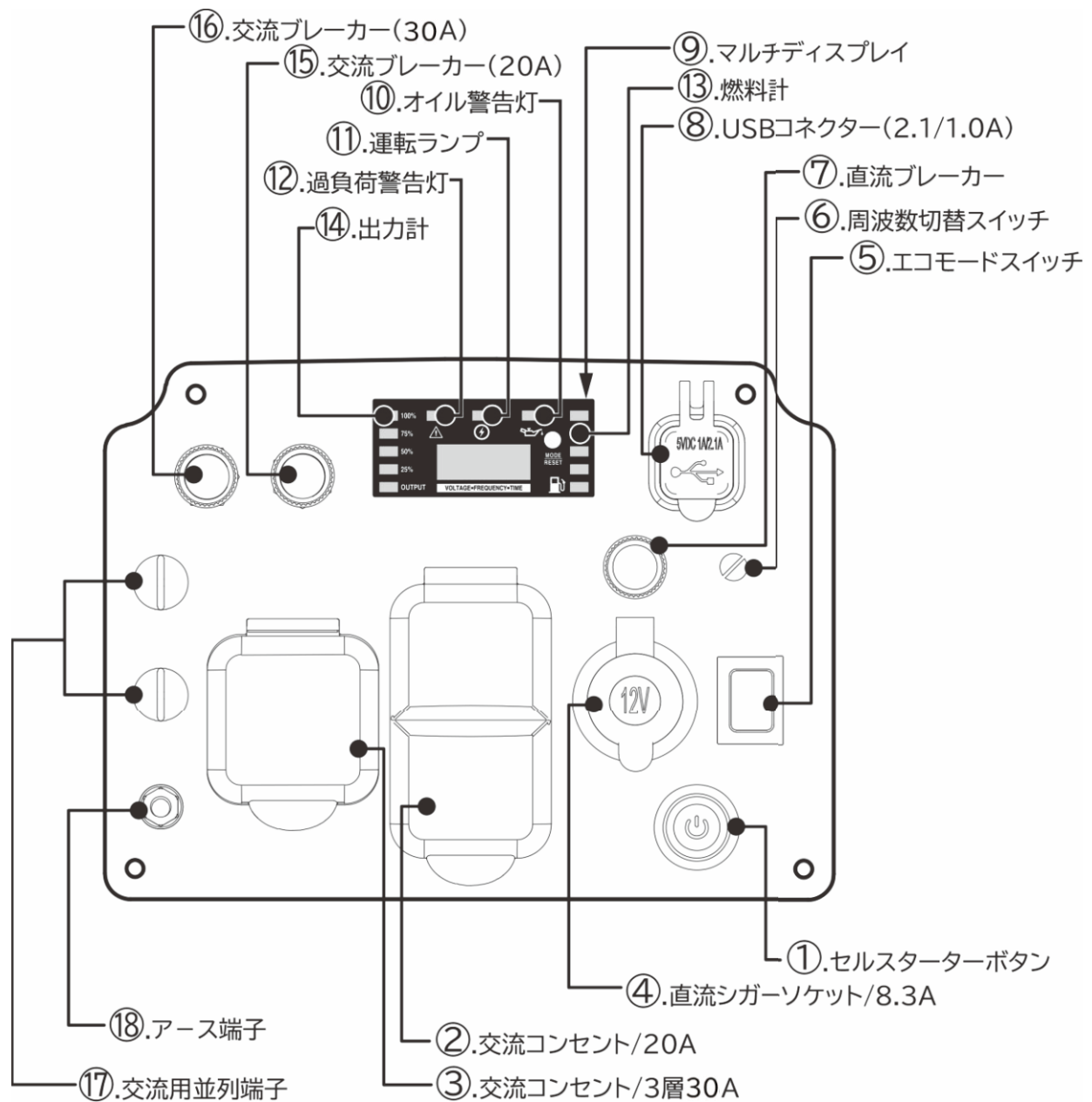
ボタン電池

4. 各部の名称と取り扱い

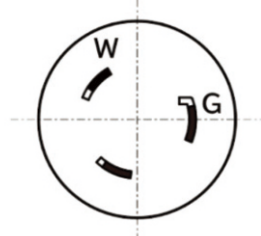
■ 各部の名称 ■



■ 各部の名称 ■



<適合プラグ>
NEMA L5-30P



■ 各部の取り扱い ■

①. セルスターターボタン

- 1秒間のみボタンを押して、セルモーターでエンジンを始動させます。
- バッテリーの残電圧を表示させる時に使用します。
※使用方法は、P.18の「バッテリー残電圧表示モード」を参照ください
- リモコンをリペアした時に本体とペアリングする際に使用します。
※使用方法は、P.15の「リモコンのペアリング方法」を参照ください

②. 交流コンセント

- 交流電気機器を接続するコンセントです。(AC100V 20A)
- (P.16) 【5.運転操作】の【・電源の取り出し方】を参照して電源を取り出してください。

③. 交流コンセント

- 交流電気機器を接続するコンセントです。(3P/AC100V 30A, 適合プラグ：NEMA L5-30P)
- (P.16) 【5.運転操作】の【・電源の取り出し方】を参照して電源を取り出してください。

④. 直流シガーソケット

- シガーソケットを接続し、直流電気を取り出します。(DC12V 8.3A)
- (P.16) 【5.運転操作】の【・電源の取り出し方】を参照して電源を取り出してください。

⑤. エコモードスイッチ

- 電気の負荷に応じてエンジン回転数を、適正回転数で運転する切替えスイッチです。
電気負荷が変化すると、必要に応じて発電機のエンジン回転数が自動的に上がったり、下がったりします。
- エコモード【ON】→接続されている電気機器の負荷に応じ、エンジン回転数を制御し、燃費と騒音が抑制されます。
- エコモード【OFF】→電気機器の負荷に関係なく、定格エンジン回転数で運転します。



注意

- ✓ 電力負荷が 1000W 未満の場合のみ、このスイッチが有効になります。
- ✓ 総負荷が 1000W 以上の電力を供給する場合は、発電機のエンジンをフル回転させる必要があるため、エコモードスイッチは、作動させないでください。

⑥. 周波数切替スイッチ

- 使用する電気機器に応じて、周波数(60Hz/50Hz)を切り替えるスイッチです。



注意

- ✓ スwitchの切り替え操作は、エンジンを停止してから行ってください。

⑦. 直流ブレーカー

- 接続電気機器への電流が過負荷になると、ブレーカーが作動し発電を停止させます。



注意

- ✓ 定格以上の電流が流れると、本機は発電のみを中止します。
- ✓ 復帰させるには、しばらく置いてから⑦直流ブレーカーのボタンを押して復帰させてください。

⑧. USB コネクター(2.1/1.0A)

- USB コネクター(タイプ A)を接続し、直流電気を取り出します。(DC5V 2.1/1.0A)
- (P.16) 【5.運転操作】の【・電源の取り出し方】を参照して電源を取り出してください。

⑨. マルチディスプレイ

▶ 発電機の出力状態や、出力電圧、周波数、動作時間等を表示します。

※詳細は、「P.17」を参照ください

⑩. オイル警告灯

▶ エンジンオイル量が適正值より下回ると、LED が点滅します。



注意

- ✓この際、エンジン保護システムが自動的にエンジンを停止させます。
- ✓また、オイル警告灯が点滅している間は、エンジンを始動することはできません。

要点

- ◆もし、オイル警告灯が点滅した場合は下記の対策を取ってください。
 - ・P.12 【5.運転操作】の【②.エンジンオイルの給油及び確認】を参照し、オイルを規定量給油します。

⑪. 運転ランプ

▶ エンジンが始動し、正常に運転されている間、LED が点灯します。

⑫. 過負荷警告灯

▶ 接続電気機器への出力が過負荷になると、LED が点灯します。



注意

- ✓内部の回路を保護するため LED が点灯し、本機は発電のみを中止します。
- ✓この時、⑪運転ランプが消えますが、エンジンは止まりません。

要点

- ◆もし、過負荷警告灯が点灯した場合は下記の対策を取ってください。
 - ・まずは、エンジンを止めてください。
 - ・接続している電気器具の消費電力(W)を確認し、定格出力範囲内に減らしてください。
 - ・エンジンエア-取入口が、塞がれてないか確認してください。
 - ・しばらく置いてから⑨マルチディスプレイのリセットボタンを押して復帰させてください。
- ※詳細は、P.17の「マルチディスプレイについて」の「⑤.モードセレクト&リセットボタン」を参照ください

⑬. 燃料計

▶ 燃料の残量を表示します。全てが点灯している場合は燃料満タン状態になります。

⑭. 出力計

▶ 接続機器への負荷状態が%で確認できます。

⑮. 交流ブレーカー(20A)

▶ 接続電気機器への電流が過負荷になると、ブレーカーが作動し発電を停止させます。



注意

- ✓定格以上の電流が流れると、本機は発電のみを中止します。
- ✓復帰させるには、しばらく置いてから⑮交流ブレーカーのボタンを押して復帰させてください。

⑩. 交流ブレーカー(25A)

- 接続電気機器への電流が過負荷になると、ブレーカーが作動し発電を停止させます。

**注意**

- ✓ 定格以上の電流が流れると、本機は発電のみを中止します。
- ✓ 復帰させるには、しばらく置いてから⑩交流ブレーカーのボタンを押して復帰させてください。

⑪. 交流用並列端子

- 別のインバーター発電機と並列運転する場合に使用します。(並列接続するための並列キットは別売になります)

⑫. アース端子

- 感電防止のために、アース線を取り付ける端子です。
- 使用する電気機器をアースした場合、発電機も必ずアースしてください。

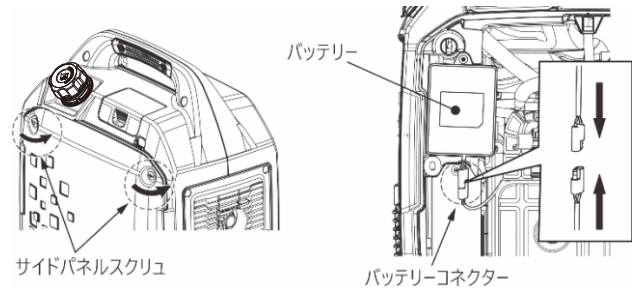
5. 運転操作

● 運転前に

※再度、【1. 安全にお使いいただくために】(P.3)を必ずお確かめの上、ご使用ください。

①. バッテリーコネクターの接続

1. サイドパネルスクリューを緩め、⑥パネルカバー(オイル側)を外します。
2. 左側の真ん中付近に、バッテリーコネクターが有るのでこれをしっかりと接続します。



②. エンジンオイルの給油及び確認

注意 ✓ 工場出荷時はエンジンオイルが入っていません。購入後は指定オイルを規定量入れてください。

▶エンジンオイルの給油

※あらかじめ、**500cc**の指定オイルを用意してください。

1. オイル点検カバーを外します。
2. オイルレベルゲージを外します。
3. 付属品の「オイルジョウゴ」の先端をオイル注入口に差し、予め用意した指定オイルを徐々に注入してください。

注意 ✓ オイル量を見る際はレベルゲージをネジ込まず、差し込んでオイル量を測ってください。
 ✓ 指定オイル：4 サイクルガソリンエンジンオイル SE 級以上、SAE 10W-30 または 10W-40
 ✓ 参考オイル量：500cc
 ※オイルレベルゲージで上限近くまで達しない場合は 50cc 程足しながら注入してください



要点

- ◆ 作業は、平らな場所でエンジンを必ず停止した状態で行ってください。
- ◆ エンジンを停止した直後は、オイルが熱い状態です。少し冷えた状態で作業を行ってください。

4. 「オイルジョウゴ」を外し、オイルレベルゲージを差して、オイル量を確認します。

要点

- ◆ 図のオイルレベルゲージの「上限」近くまで有るかを確認します。

5. 給油後、オイルレベルゲージを確実に取付けます。
6. オイル点検カバーを元に戻します

③. 燃料の給油



注意

✓ 工場出荷時は燃料が入っていません。購入後はレギュラーガソリンを規定量入れてください。



警告



禁止



火気厳禁

- ✓ 燃料補給を屋内や換気の悪い場所で行わないでください。ガソリンは非常に燃えやすく、爆発や火災の危険があります。給油はエンジンを停止させてから行ってください。また、給油中は十分に火気に注意して行ってください。ガソリンからは揮発したガスが常に発生していますので、充分な換気を行ないながら作業をしてください。
- ✓ ガソリンは消防法に適合した容器からこぼさないよう、ゆっくり補給してください。こぼれた場合は布などで完全に拭き取り引火に注意して処分してください。
- ✓ 静電気の放電火花が気化ガソリンに引火し火傷を負うおそれがありますので、身体に帯電した静電気を除去してください。本体の金属部分に触れると静電気を放電することができます。
- ✓ ガソリンは給油限界を超えて補給しないでください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンが漏れ出ることがあります。



実施

- ✓ 燃料補給時に燃料タンク内に水分・雪や氷・ゴミ・ホコリが入らないように注意してください。燃料タンクにそれらが入るとエンジン停止、始動困難など不調の原因となります。

▶燃料の給油

1. ⑧タンクキャップを外します。
2. 給油口から燃料がこぼれないようにゆっくり規定量を給油してください。
3. 給油が完了したら⑧タンクキャップを右に一杯に回しカチカチと空回りするまでしっかりと締め付けてください。



注意

- ✓ 指定ガソリン：レギュラーガソリン使用のこと。※ハイオクガソリン、混合ガソリン等その他は不可。
- ✓ 給油量：約 5.8L (ガス欠状態になった場合の給油量の目安です)

● エンジンの始動

➤ 始動方法は、「リコイルスターター」、「セルスターター(ボタン)」、「セルスターター(リモコン)」の方法があります。

警告



禁止

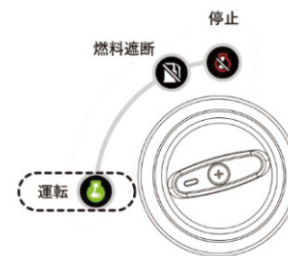


毒物注意

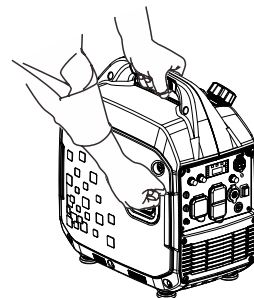
- ✓ 排気ガスには有毒な成分が含まれています。車内や閉め切った倉庫や車庫の中等の換気の悪い場所や風通しの悪い場所での使用はしないでください。一酸化炭素中毒等により死亡又は重度の後遺障害の恐れがあります。
- ✓ 使用可能な安全な場所かをご確認の上、使用ください。発電機付近に障害物や危険物、燃えやすい物無いか、また建物およびその他の設備から 1.5m 以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。また、キャンプ場、イベント会場等では使用禁止のルールがあるような場所での使用は予めご確認ください。
- ✓ 傾斜地で使用しないでください。平で硬い場所で使用してください。
- ✓ 電気機器を接続した状態でエンジンを始動しないでください。

①. リコイルスターターによる始動

1. 燃料(ガソリン)が入っているかを確認します。
2. ⑤エコモードスイッチを「OFF」にします。
3. ⑥メインスイッチを「運転」にします。



4. 本機側の安全な部分をしっかり押さえ、
 - ⑦リコイルスターターを静かに引き、重くなる場所で止め、次に強く引いてエンジンを始動させます。



要点

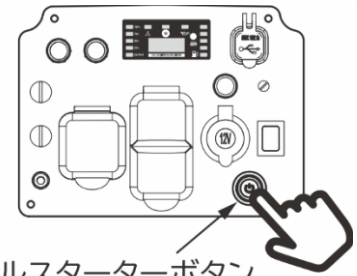
- ◆ リコイルでもエンジンが掛からない場合は、【P36 リコイルスターターによる始動 補足説明】を参照の上、エンジンを掛けてください。

⚠️注意

- ✓ ㊦リコイルスターターは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花がよく飛びエンジンがかかりやすくなります。逆にエンジン回転が遅いと火花が飛びにくくなりエンジンがかからないことがあります。
- ✓ ㊦リコイルスターターを引いたまま、手を離さないでください。㊦リコイルスターターが勢いよく戻り、始動装置や周りの部品等を破損することがあるので、ご注意ください。
- ✓ エンジン始動中は、㊦リコイルスターターを引かないでください。エンジン本体に悪影響を与えます。

②. セルスターターボタンによる始動

1. 燃料(ガソリン)が入っているかを確認します。
2. ㊥エコモードスイッチを「OFF」にします。
3. ㊥メインスイッチを「運転」にします。
4. ㊦セルスターターボタンを「約 1 秒間」押して、エンジンを始動させます。



①.セルスターターボタン

③. リモコンによる始動

1. 燃料(ガソリン)が入っているかを確認します。
2. ㊥エコモードスイッチを「OFF」にします。
3. ㊥メインスイッチを「運転」にします。
4. 同梱されているリモコンを発電機本体に向けて、「ON」ボタンを「約 1 秒間」押しエンジンを始動させます。



リモコンのペアリング方法 ※リモコン単体を交換した際に、本機と新たにペアリング設定する必要があります

- ① ㊥メインスイッチを「運転」にします。
- ② 本体のセルスターターボタンを「5 秒間」長押しします。……5 秒後、セルスターターボタンが点滅します。
- ③ リモコンを発電機に近づけ、リモコンの「ON」ボタンを 1 秒間のみ押し、セルスターターが作動したらペアリング完了です。

⚠️注意

- ✓ ㊦セルスターターボタンまたは、リモコンの「ON」ボタンは 1 秒以上押し続けしないでください。
- ✓ 1 度の始動でエンジンが作動しなかった場合は、5 度までは自動的に再度セルモーターが始動しエンジンを作動させようとしてます。それでも始動しない場合は、リコイルスターターで始動させてください。
- ✓ この発電機は、「OPD 機能」(Output Power Delayed)が付いており、始動後約 20 秒間は電気を生成しません。
万一、接続されている機器があっても電力を供給せずに発電機が始動されます。
- ✓ 発電機を長期保存している場合、バッテリー電圧が弱くなっている可能性があります。その場合は、リコイルスターターで始動させてください。また、発電機が作動すると自動的に搭載バッテリーへの充電も開始されます。

● 電源の取り出し方

⚠ 警告



禁止

- ✓ 電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。本機や本機に接続された電気機器が故障、火災や人身事故の原因となります。
- ✓ 濡れた手で操作、金属物をコンセントに差し込んだりしないでください。感電の恐れがあります。
- ✓ 電気機器の電源が OFF になっていることを確認してから接続してください。

⚠ 注意

- ✓ 定格出力を超えた状態(過負荷)での使用はしないでください。
- ✓ 使用前に接続するコードの損傷等が無いか確認してください。
- ✓ 使用する電気機器をアースした場合やアース付プラグを使用の際は、発電機側も必ずアースしてください。

▶【交流(AC)電源】

1. エンジンを開始後、⑪運転ランプが点灯していることを確認する。
2. ⑥周波数切替スイッチを確認し、適正な周波数になっているか確認する。
3. 電気機器の電源が OFF になっていることを確認し、電気機器のコンセントを接続する。
4. 接続後、電気機器の電源を ON にして、ご使用いただけます。

▶【直流(DC)電源】

1. エンジンを開始後、⑪運転ランプが点灯していることを確認する。
2. 電気機器の電源が OFF になっていることを確認し、④直流シガーソケットへ接続する。
3. 接続後、電気機器の電源を ON にして、ご使用いただけます。

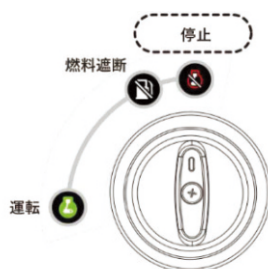
● エンジンの停止

▶エンジンの停止

⚠ 注意

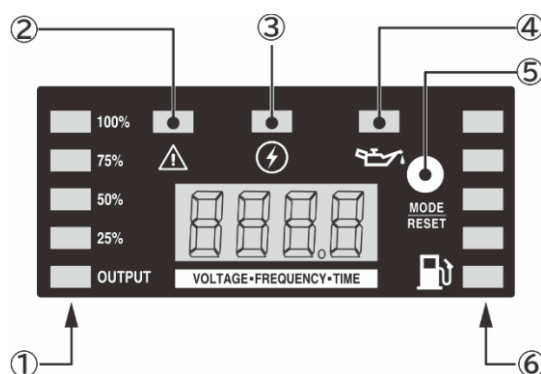
- ✓ エンジン停止の前に、接続されている全ての電気機器を外してください。
- ✓ 電気機器が接続され動作している間は、エンジンを停止しないでください。

1. 発電機から接続されている全ての電気機器を外します。
2. ⑤エコモードスイッチが「ON」になっている場合は、「OFF」にします。
3. 無負荷状態でエンジンを約 3 分間、運転させます。
4. ⑤メインスイッチを「停止」にし、エンジンを停止させます。



● マルチディスプレイについて

- ▶ マルチディスプレイは、発電機の出力状態や、出力電圧、周波数、動作時間等の情報を表示します。



①. 出力表示

- ▶ 運転時に接続機器との負荷状態が%で表示されます。
- ▶ また、「バッテリー残電圧表示モード」では、バッテリーの残電圧が表示されます。

②. 過負荷警告灯

- ▶ 接続電気機器への出力が過負荷になると、赤 LED が点灯します。
- ※詳細は、「P10」を参照ください。

③. 運転ランプ

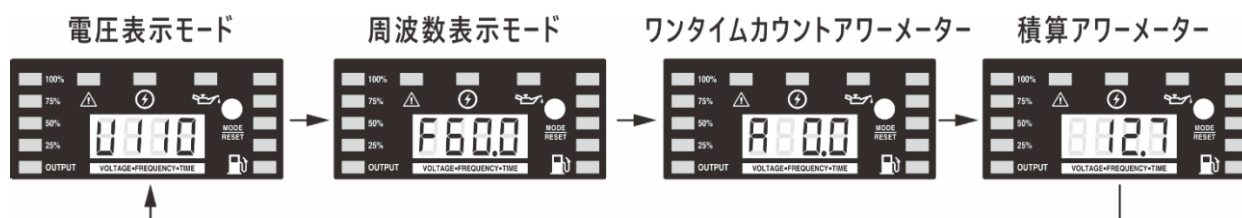
- ▶ エンジンが始動し、正常に運転されている間、緑 LED が点灯します。

④. オイル警告灯

- ▶ エンジンオイル量が適正値より下回ると、黄 LED が点滅します。

⑤. モードセレクト&リセットボタン

- ▶ マルチディスプレイの表示モードを切り替えるボタンです。1度押すたびに表示モードが切替ります。
- ▶ また、各ブレーカーが作動し発電を停止した際、出力を回復させる時にこのボタンを、押し発電機を復帰させます。



⑥. 燃料計

- ▶ 燃料の残量を表示します。全てが点灯している場合は燃料満タン状態になります。

▶電圧表示モード

- ▶ 運転時の出力電圧を表示します。上図のイラストは、「V110(110 ボルト)」を示します。

▶周波数表示モード

- ▶ 設定周波数を表示します。上図のイラストは、「60Hz(ヘルツ)」を示します。

▶ワンタイムカウントアワーメーター モード

- ▶ 発電機を始動させ OFF にするまでワンタイムのみのアワーメーター。発電機 OFF でリセットされます。

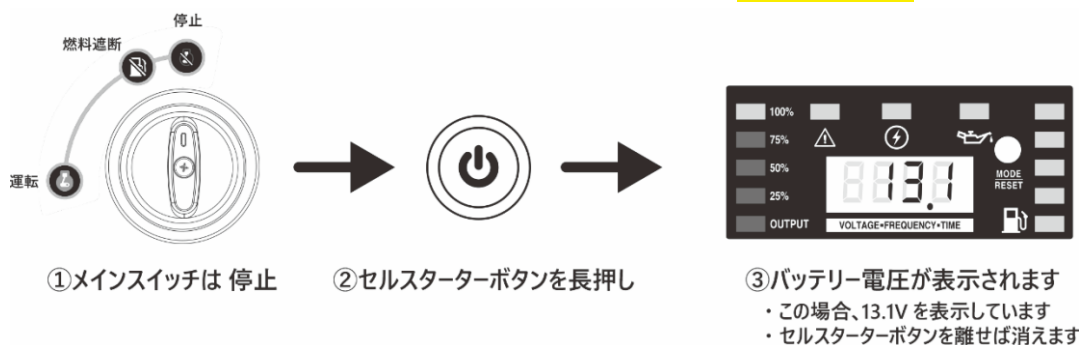
▶積算アワーメーター モード

- ▶ 作動時間を積算した、アワーメーター。リセットは出来ません。

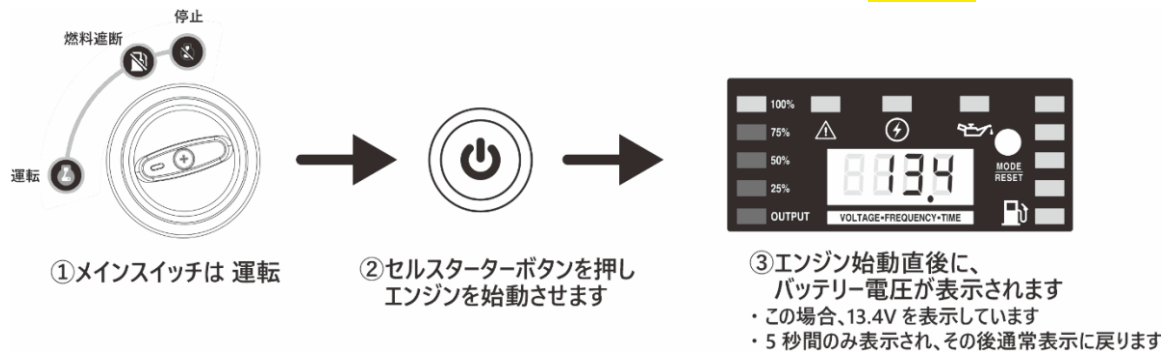
▶バッテリー残電圧表示モード

- ▶ バッテリーが正常な電圧を確保できているか下記の方法で確認できます。

- ①. エンジンを掛けずに電圧を確認する方法……この場合の電圧は**バッテリー残電圧**を表示します



- ②. エンジン始動時に電圧を確認する方法……この場合の電圧はバッテリーへの**充電電圧**を表示します



⚠注意

- ✓ バッテリーの推奨電圧は 12.4V 以上です。それ以下の電圧ではセルモーターが動かない場合があります。その場合は、リコイルを使用してください。
- ✓ リコイルでもエンジンが掛からない場合は、【P36 リコイルスターターによる始動 補足説明】を参照の上、エンジンを掛けてください。

6. 点検・保守・保管



禁止

- ✓ 排気ガスには有毒な成分が含まれています。車内や室内など閉め切った倉庫や車庫の中等の換気の悪い場所や風通しの悪い場所での使用及び点検はしないでください。一酸化炭素中毒等により死亡又は重度の後遺障害の恐れがあります。
- ✓ 使用中、使用後のマフラー部は非常に熱くなっております。マフラー高温時には、マフラーに触れないでください。火傷をしたり衣服を焦がしたりする危険があります。また、高温の時は絶対にガソリンや引火性のあるワックスやクリーナー、塗料などのケミカル製品をマフラー等に垂らしたり吹き付けたりしないでください。火傷や本機の損傷、火災の原因となります。
- ✓ 点検作業を怠ると、重大な事故や故障の原因につながるため、必ず実施してください。



- ✓ 毎回使用前には、始業点検の実施、また定期点検も必ず行ってください。
- ✓ 点検作業の前に、接続されている全ての電気機器を外してから行ってください。
- ✓ 使用中及び点検中に異音、臭い、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。

①. 始業点検

要点

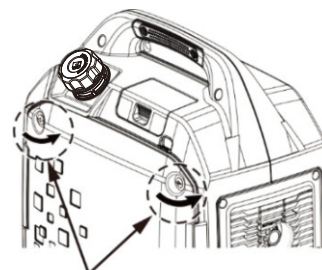
- ◆ 発電機をご使用になる前に必ず始業点検を行ってください。

1. ⑧タンクキャップを外し、燃料(レギュラーガソリン)が入っているかを目視で確認します。

要点

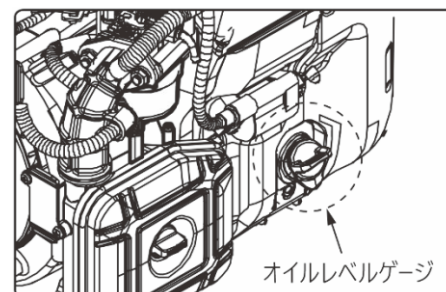
- ◆ 燃料の給油は、P13 「③.燃料の給油」を参照してください。

2. サイドパネルスクリューを緩め、⑥パネルカバー(オイル側)を外します。

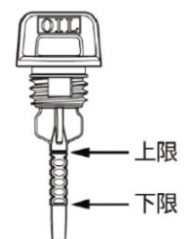


サイドパネルスクリュー

3. オイルレベルゲージを外して、オイル量が既定の量が入っているか確認します。



オイルレベルゲージ



要点

- ◆ エンジンオイルの給油は、P12 「②.エンジンオイルの給油及び確認」を参照してください。

②. 保 守(定期点検)

要点

- ◆ いつまでも発電機を快適にお使いいただくためにも、定期点検を実施してください。
- ◆ 下記の定期点検表に基づき、定期点検を実施してください。
- ◆ 過酷な環境下での使用の場合は、点検頻度を増やして実施してください。

点検項目		点検時期 (注1)	始業 点検	10時間	50時間	100時間	300時間	保管 前	必要に 応じて
				または 2ヶ月毎	または 3ヶ月毎	または 6ヶ月毎	または 1年毎		
燃料 (レギュラーガソリン)	適量確認		○						
	抜取り							○	
エンジンオイル	規定量確認		○						
	交換			○(初回のみ)		○(以降)			○
エアフィルター	点検		○						
	洗浄				○				
点火プラグ	点検 ギャップ調整					○			
	交換						○		○
キャブレター内燃料	抜取り							○	

(注1) 点検時期は表示されている時間毎または、年月毎のどちらか早い方で実施してください。

燃料タンク内にガソリンが残っている場合で、2ヶ月以上の保管は避けてください。

バッテリーの寿命を最大限に活かすため、毎月20分以上の運転をさせてください。

③. エンジンオイルの交換



注意

- ✓ いつまでも発電機を快適にお使いいただくためにも、定期的なオイル交換を実施してください。オイル交換を怠ると内部部品の寿命を縮め、重大な故障の原因につながるため、必ず実施してください。
- ✓ エンジンオイルの点検及び交換作業は、本体を水平状態で実施してください。
- ✓ エンジン停止直後はエンジンやオイルの温度が高く火傷をする恐れがあります。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。
- ✓ エンジンオイルは本体を使用しなくても自然劣化します。定期的な点検、交換を行ってください。
- ✓ オイルレベルゲージは手で確実に締め付けてください。締め付けが不十分だとオイルがにじむ事があります。

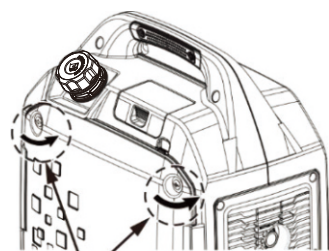


法令違反

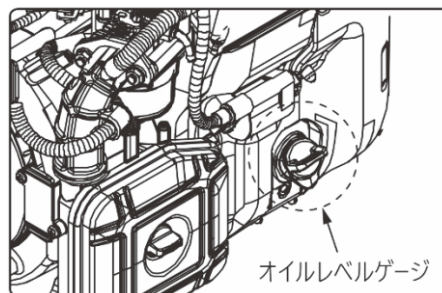
- ✓ エンジンオイルを交換後、廃油は地面や排水溝などに捨てずに、環境保護のため法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルを購入されたお店にご相談ください。

● エンジンオイルの抜き方

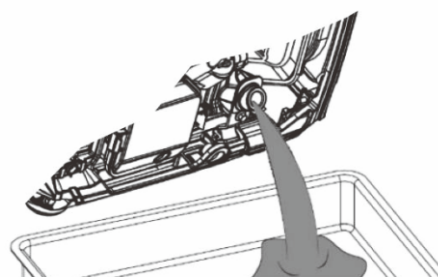
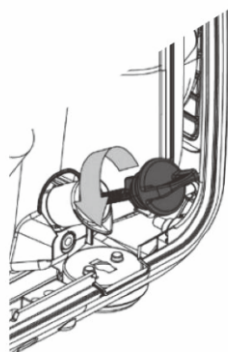
1. 古いエンジンオイルを抜きやすくするために、エンジンを 2～3 分間始動します。
2. 廃油受け(古いエンジンオイルを受けるための容器)を予め用意し、発電機本体の近くに置きます。
3. サイドパネルスクリューを緩め、㉔パネルカバー(オイル側)を外します。
4. オイルレベルゲージを外します。
5. 手順 2 で用意した廃油受けに発電機本体を傾け、オイル注入口から古いエンジンオイルを抜き取ります。
6. 完全に抜き取ったら、エンジンオイルの抜き取りは完了です。



サイドパネルスクリュー



オイルレベルゲージ



● エンジンオイルの給油

要点

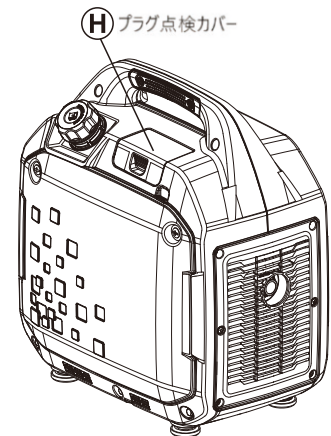
◆ エンジンオイルの給油は、P.12 「②.エンジンオイルの給油及び確認」を参照してください。

④. 点火プラグの点検と調整

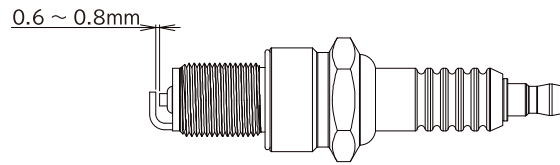
注意

- ✓ 点火プラグは、徐々に劣化するので、定期的な点検を行ってください。
- ✓ 点火プラグが劣化していると、火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。
- ✓ エンジン停止直後はエンジンの温度が高く火傷をする恐れがあります。十分に冷えてから点火プラグ点検作業を行ってください。
- ✓ 下記指定以外の点火プラグを使用しないでください。不調や故障の原因になります。
※指定点火プラグ：NGK / BP5HS または Torch / E5T
- ✓ 点火プラグを取り付ける際は、最初に手でプラグを 3～4 回転まわし、ネジ山に問題が無いのを確認してからプラグレンチで所定のトルクで確実に締め付けてください。
- ✓ 点火プラグは確実に締め付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドリング不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。

1. エンジンを停止させ、十分に冷えていることを確認し、Ⓜプラグ点検カバーを外します。
2. 点火プラグキャップを点火プラグより外します。
3. 付属のプラグレンチで点火プラグをエンジンから取り外します。
4. 取り外した点火プラグを目視で【焼け具合】、【汚れ】、【プラグギャップ(すき間)】等を確認します。
5. 【焼け具合】は、黒くなったり、白くなっている場合は、エアークリーナーを点検してください。正常な場合は、きつね色になっています。
6. 【汚れ】がある場合は、市販のパーツクリーナー等で清掃するか無い場合は、ワイヤブラシ等で清掃してください。



7. 【プラグギャップ(すき間)】を、下記寸法に調整します。



8. 点検・調整作業が終わったら、点火プラグをエンジンに取付けます。

⚠️注意

- ✓ 点火プラグを取り付ける際は、最初に手でプラグを 3～4 回転まわし、ネジ山に問題が無いのを確認してからプラグレンチで所定のトルクで確実に締め付けてください。
- ✓ 点火プラグ締め付トルク：21 N/m
- ✓ 点火プラグは確実に締め付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドリング不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。
- ✓ 点火プラグを強く締め付け過ぎてネジ山を壊さないように注意してください。

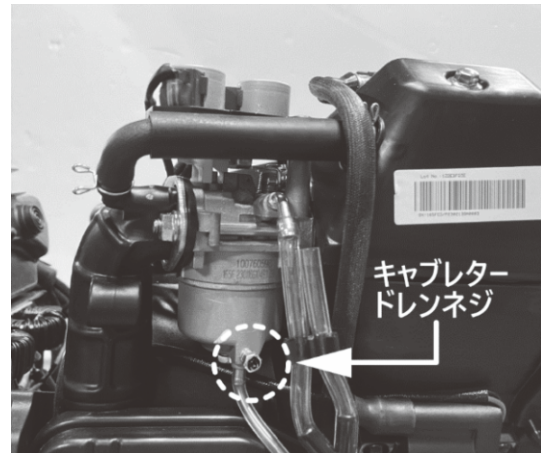
9. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。

10. 最後に、Ⓜ️プラグ点検カバーを元通りに戻して作業は完了です。

⑤. キャブレター残燃料排出

発電機の使用後および保管前にキャブレターの残燃料を排出してください。残燃料を排出すると、キャブレター内の燃料の停滞によって引き起こされる蓄積や詰まりを防ぐのに役立ちます。

1. 4本のネジを緩め、Ⓞパネルカバー(オイル側)を取り外します。
2. ドライバーでキャブレタードレンネジを開き、キャブレター内に溜まったガソリンを排出します。
3. 燃料が排出されたら、ドライバーでドレンネジを締めます。
4. 最後に、Ⓞパネルカバー(オイル側)を元通りに戻して作業は完了です。



要点

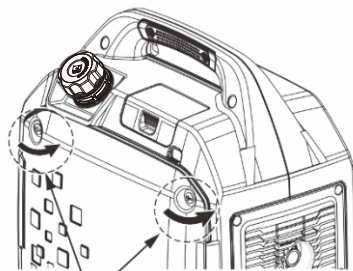
- ◆ 発電機を長期格納する前に、必ずキャブレターを空にしてください。

⑥. エアフィルターの清掃

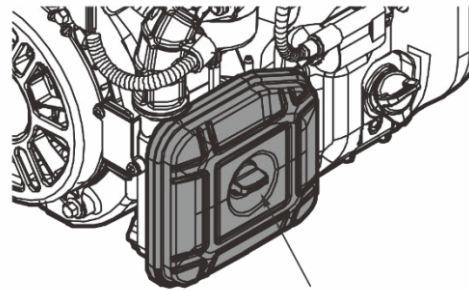
⚠️注意

- ✓ エアフィルターを汚れたままで使用すると、エンジンの内部損耗や出力低下をまねくので定期的な清掃を実施してください。
- ✓ エアフィルターの洗浄に、ガソリンは使用しないでください。
- ✓ エアフィルター(スポンジ)は、破れる恐れがあるので、絶対に両手では絞らないでください。

1. エンジンを停止させ、十分に冷えていることを確認します。
2. サイドパネルスクリューを緩め、⑥パネルカバー(オイル側)を外します。
3. エアフィルターカバー取付ボルトを緩め、エアフィルターカバーを取り外し、エアフィルターを取り出します。



サイドパネルスクリュー

エアフィルターカバー
取付ボルト
エアフィルターカバー

4. 取り出したエアフィルターを、きれいな灯油で洗います。

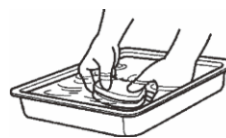
⚠️注意

- ✓ エアフィルターの洗浄に、ガソリンは使用しないでください。

きれいな灯油で洗う

きれいな布で包んで
片手で握り絞ります

乾燥させます

エンジンオイルに
浸しますオイルが垂れない
程度に片手で絞ります

5. エアフィルターをきれいな布に包んで、片手で握って絞ります。

⚠️注意

- ✓ エアフィルター(スポンジ)は、破れる恐れがあるので、絶対に両手でねじって絞らないでください。

6. 絞ったエアフィルターを乾燥させます。
7. 乾燥させたら、きれいなエンジンオイルに浸します。
8. 浸したオイルがエアフィルターから垂れない程度に、片手で握って取り除いてください。
9. エアフィルターを元通りに戻して、エアフィルターカバーを取付けます。
10. 最後に、⑥パネルカバー(オイル側)を元通りに戻して作業は完了です。

⑦. 保管(一時保管・長期格納)

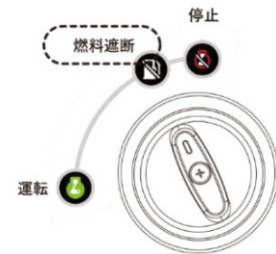
✓いつでも使用できるように、月 1 度、20 分程度の試運転をおすすめいたします。長時間放置するとエンジンがかかりにくくなり故障の原因になります。



- ✓【一時保管】・・・次の使用が約 30 日以内の場合は、こちらの手順で実施してください。
- ✓【長期格納】・・・次の使用が上記以上の場合は、こちらの手順で実施してください。
- ✓ガソリンやオイルは自然劣化します。ガソリンは約 30 日に 1 回。オイルは定期点検表に基づき交換作業を実施してください。

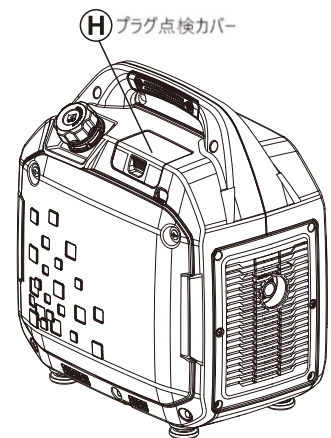
● 一時保管

1. エンジンを始動させ、⑤メインスイッチを「燃料遮断」の位置にします。
こうすることで、ガソリンタンクからの燃料を遮断し、キャブレター内の燃料を燃焼します。
2. キャブレター内の燃料が無くなるとエンジンは自動的に停止します。(5 分程)
3. ⑤メインスイッチを「停止」の位置にし、エンジンを冷やします。
4. エンジンが十分に冷えていることを確認し、⑧タンクキャップを外して、ガソリンタンクに残っているガソリンを抜き取ります。
5. ⑧タンクキャップをしっかりと締め、。
6. 湿気が少なく、換気のよい室内で保管してください。



● 長期格納

1. 予め【一時保管】の内容を実施します。
2. ⑨プラグ点検カバーを外します。
3. プラグキャップを点火プラグより外し、付属のプラグレンチで点火プラグをエンジンから取り外します。
4. 「プラグ穴」から、エンジンオイルを「3～5cc」を給油します。



5. 点火プラグを付ける前に、⑩リコイルスターターを 3～5 回引いて、オイルを馴染ませます。
6. 点火プラグをエンジンに取付け、プラグキャップを点火プラグにしっかりと取付けます。



- ✓ 点火プラグを取り付ける際は、最初に手でプラグを 3～4 回転まわし、ネジ山に問題が無いのを確認してからプラグレンチで所定のトルクで確実に締め付けてください。
- ✓ 点火プラグ締め付トルク：21 N/m
- ✓ 点火プラグは確実に締め付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドル不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。
- ✓ 点火プラグを強く締め付け過ぎてネジ山を壊さないように注意してください。

7. ㊸プラグ点検カバーを元通りに戻します。
8. 最後に、㊹リコイルスターターをゆっくりと引いて一番重くなったところで止め、㊺リコイルスターターを戻します。
9. 各部を清掃して、防錆処理を実施します。
10. 湿気が少なく、換気の良い室内でカバー等をかけ保管してください。

7. 故障診断（故障対応）



- ✓ 修理を依頼する前に、ご自身で以下の点検を行い、故障を大きくしないように処置をし、むやみな分解等を行わず、お買い上げの販売店へご相談ください。
- ✓ よくある故障を下記にまとめましたので、ご確認ください。

故障	原因	対応方法
セルが回らない	バッテリーコネクタの未接続	「P12 ①バッテリーコネクタの接続」を参照し、バッテリーコネクタを接続します
	バッテリーの電圧不足	「P14 ①リコイルスターターによる始動」を参照し、リコイルでエンジンを作動させ最低30分間動かし、バッテリーを充電させます
	バッテリー本体の劣化	バッテリー本体が劣化等により充電出来なくなっているため、新品バッテリーと交換してください
バッテリー電圧が有ってもセルが動かない	セルモーターモジュールの不具合	セルモーターモジュールの不具合が考えられますので、お買い上げの販売店へご相談ください
エンジンがかからない または、始動困難	燃料が入っていない	燃料(レギュラーガソリン)を給油します
	エアークラップがOFFになっている	⑧タンクキャップのエアークラップを“ON”にする
	点火プラグが湿っている(カプっている)	チョークを引いたままにしていると、点火プラグが湿りがちとなるので点火プラグを外し、よく乾燥させます
	点火プラグの火花が出ない または火花が弱い	「P22 ④点火プラグの点検と調整」を参照し点検・調整します または、新品プラグと交換してください
	エンジンオイル不足	「⑩オイル警告灯」が点滅している場合は、保護システムが作動し、エンジンがかからないのでエンジンオイルを規定量給油します
電気が取り出せない(出ない)	過負荷警告灯が点灯している	接続している電気器具の消費電力(W)を確認し、定格出力範囲内に減らしてください エンジンエアークラップが、塞がれてないか確認してください P17の⑤モードセレクト&リセットボタンを押して、回路をリセットします
電気が弱い	使用周波数が適正でない	⑥周波数切替スイッチを正しい周波数に合わせる

何かお困りの際は、下記窓口までお気軽にお問合せください。



お問い合わせ先（ナビダイヤル）

0570-055-819



インターネット受付窓口

<https://www.daytona.co.jp/contact/form.php>

●当社営業日のみ受け付けております。受付時間 10:00-17:00（月～金）

※祝祭日、当社研修等の臨時休業日を除きます。



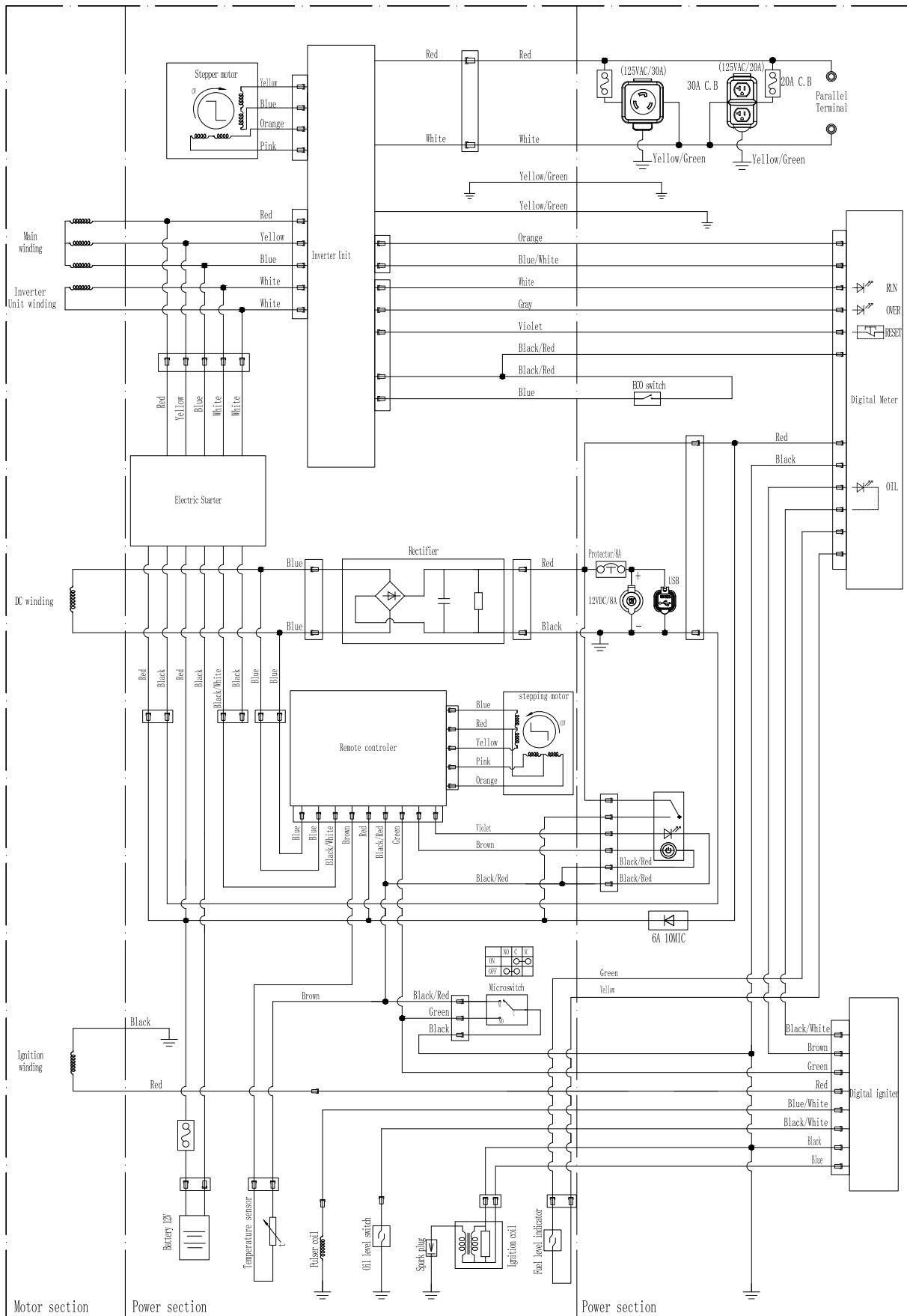
8. 製品諸元表

製品諸元

型 式	DAYGENE2700e	
エ ン ジ ン 型 式	強制空冷 4 サイクルガソリンOHVエンジン	
総 排 気 量	149cc	
回 転 数	4300rpm (ECOモード=3000rpm)	
始 動 方 式	リコイル & ACGスターター方式	
オ イ ル 容 量	500 cc	
燃 料 タ ン ク 容 量	5.8 ℓ	
点 火 プ ラ グ	NGK / BP5HS または Torch / E5T	
本 体 型 式	フルカバーボディ	
全 長 (実 測 値)	455mm	
全 幅 (実 測 値)	296mm	
全 高 (実 測 値)	500mm	
重 量 (実 測 値)	27.2kg / オイル & ガソリン規定量注入済 22.5kg / オイル & ガソリン無	
電 圧 調 整 方 式	インバーター方式	
交 流	定 格 出 力	2.7kw
	定 格 電 圧	AC : 100V
	定 格 電 流	AC : 20A / 3P 30A
	定 格 周 波 数	50Hz/60Hz
直 流	定 格 電 圧	シガーソケット : 12.0V USBポート : 5.0V
	定 格 電 流	シガーソケット : 8.3A USBポート : 2.1A / 1.0A
連 続 運 転 時 間	約100%(26.5A)負荷時=3時間 50%負荷時=5時間	
騒 音 レ ベ ル (7 m) ※注1	約90%負荷時=69dB(A) 約75%負荷時=68dB(A)	
出 力 種 類	AC100V/20A × 1個	
	AC100V/3P 30A × 1個	
	USB-A(5V 2.1/1.0A) × 各1個	
	シガーソケット(12V/8.3A) × 1個	

※注1 : 4 方向で各 3 回測定後、それぞれ中間値の平均値を算出し、更に 4 方向の平均値での値

9. 製品回路图



10. リモコン電池の交換方法

※ 適合するリモコンのボタン電池は、**【CR2032】**が **1 個** 必要です。

- ① ビス 3 本を外し、裏のカバーを外します。



- ② 中の基盤を外します



- ③ ボタン電池をケースごと、基盤から抜き取ります。



- ④ 取り出したボタン電池ケースからボタン電池を取り出し、新しい電池に入替えます。



- ⑤ 新しい電池に入替えたら、逆の手順で元に戻します。
⑥ 新しい電池に交換したら、元通りにリモコンが作動するか確認し、作業は完了です。

要点

◆ もし、リモコンと本体が接続してない場合は、再ペアリングが必要なので下記の要領で設定し直してください。

リモコンのペアリング方法

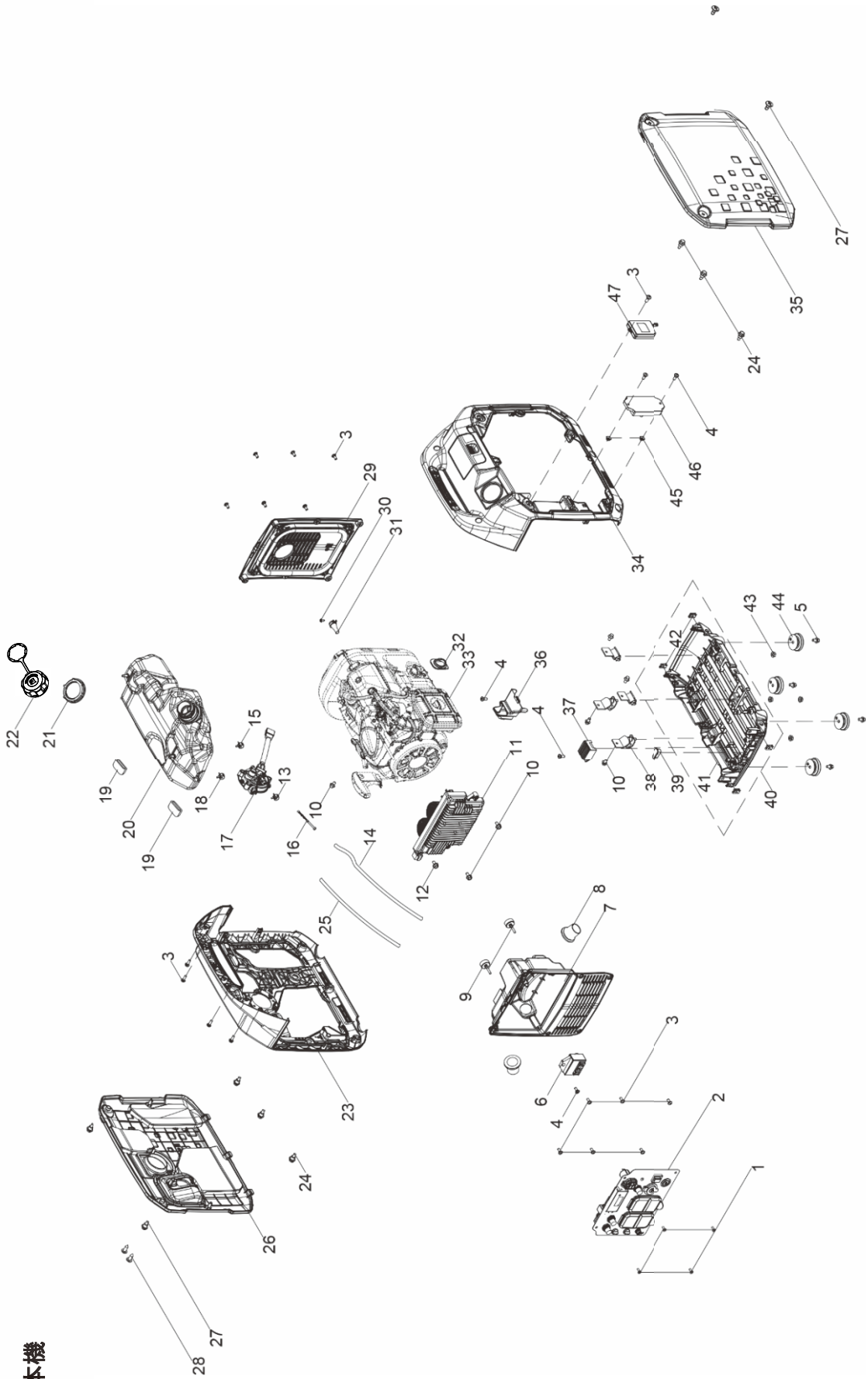
- ① 本体のセルスターターボタンを「5 秒間」長押しします。……5 秒後、セルスターターボタンが点滅します。
② リモコンを発電機に近づけ、リモコンの「ON」ボタンを 1 秒間のみ押し、セルスターターが作動したらペアリング完了です。

東証 JASDAQ 上場
株式会社 **デイトナ**
〒437-0226 静岡県周智郡森町一宮4805
<http://www.daytona.co.jp>

お客様相談窓口 ☎ 0120-60-4955
デイトナ商品についてのご質問、ご意見をフリーダイヤルで受け付けております。

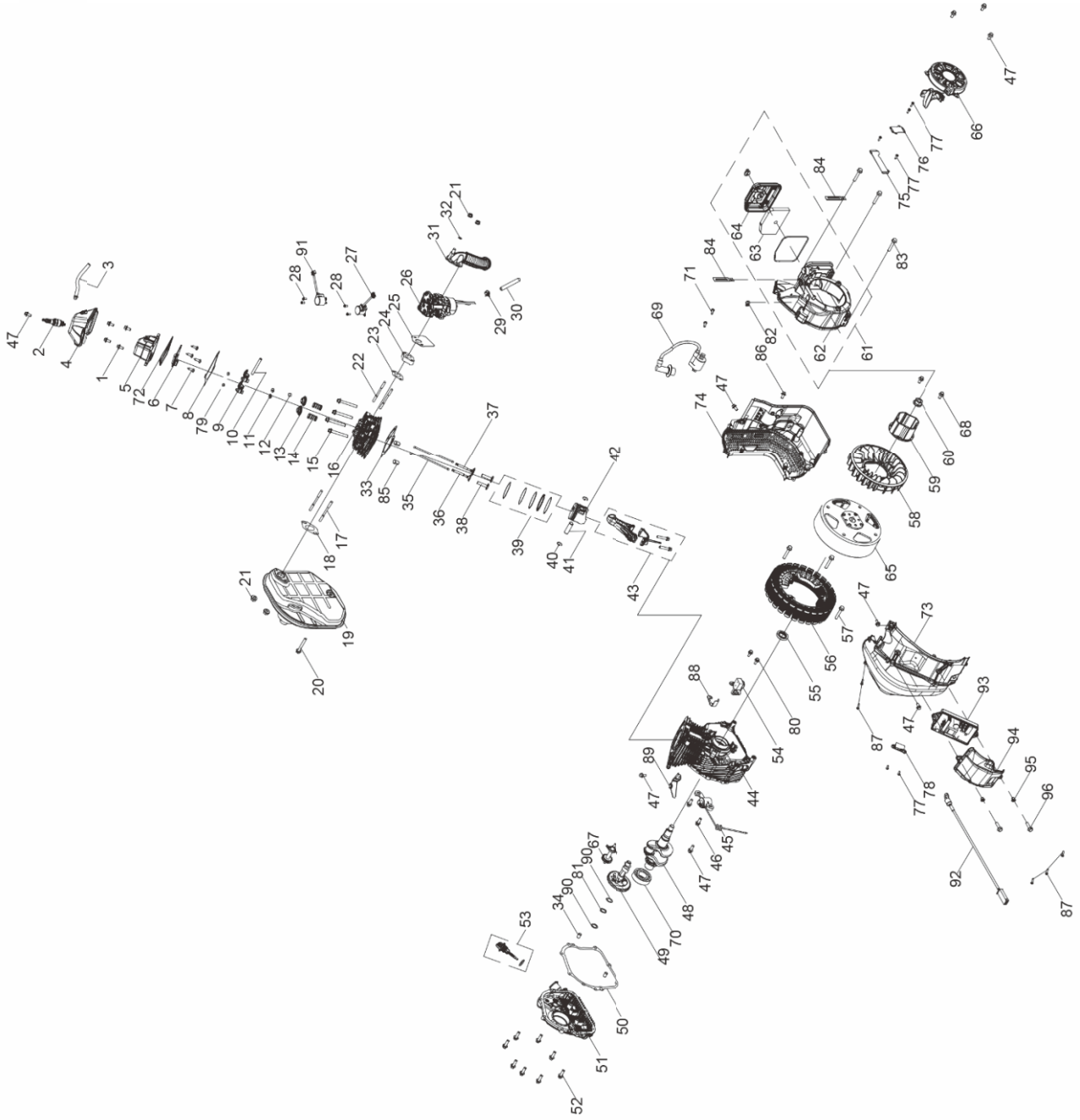
11. パーツリスト

本機



No.	品番	部品名称	使用数 /台
1	55441	スクリュ, M4 x 10	4
2	55643	コントロールパネルASSY	1
3	55465	スクリュ, M5 x 16	20
4	55644	スクリュ, M4 x 16	5
5	55491	スクリュ, M6 x 12	4
6	55486	イグナイター	1
7	55645	パネルカバー	1
8	55646	ワイヤージャケット	2
9	55647	ラバーパッド	2
10	55453	フランジ付六角ボルト, M6 x 12	7
11	55648	インバーターユニット	1
12	55649	ボルト, M5 x 8	1
13	55650	クランプ	1
14	55651	燃料ホース	1
15	55652	クランプ, Φ8	1
16	55653	燃料ストレーナー	1
17	55654	メインSW ASSY	1
18	55655	クランプ, Φ11.5 x 10	1
19	55470	ラバーパッド	2
20	55978	燃料タンク	1
21	55473	ロックナット	1
22	55979	タンクキャップ	1
23	55657	フレームASSY, LH	1
24	55462	ロケーティングボルト	6
25	55466	アウターチューブ	1
26	55658	パネルカバー, LH	1
27	55659	ボルト, パネルカバー	4
28	55660	セルフタッピングスクリュ, ST4.2 x 13	2
29	55661	マフラーカバー	1
30	55478	セルフタッピングスクリュ, ST4.2 x 9.5	1
31	55479	スパークアレスタASSY	1
32	55662	オイルシール	1
33	受注生産品	エンジンASSY	1
34	55663	フレームASSY, RH	1
35	55664	パネルカバー, RH	1
36	55665	シュラウドカバー	1
37	55666	レクチファイヤ	1
38	55493	ダンパー	4
39	55494	ラバーサポート	1
40	55667	ボトムプレートASSY	1
41	55668	ボトムプレート	1
42	55460	クランプナット	4
43	55496	ナット, M6	4
44	55669	ゴム足	4
45	55670	クランプナット	2
46	55671	リモートコントローラーレシーバー	1
47	55672	バッテリー/1.6Ah	1

エンジン



No.	品番	部品名称	使用数 / 台
1	55584	フランジ付六角ボルト, M6 x 20	4
2	55604	点火プラグ(Torch/E5T)	1
3	55535	ブリーザーホース	1
4	55673	ヘッドカバー	1
5	55674	ヘッドカバーASSY	1
6	55675	インナーカバー, ヘッドカバー	1
7	55539	スクリュ, M3 x 6.5	4
8	55676	ガスケット, ヘッドカバー	1
9	55677	ロッカーアームASSY	2
10	55678	シャフト, ロッカーアーム	1
11	55543	コレット, バルブ	2
12	55679	バルブシール, IN	1
13	55545	バルブスプリングシート, 182F	2
14	55608	バルブスプリング	2
15	55680	フランジ付六角ボルト, M8 x 50	4
16	55681	シリンダーヘッド	1
17	55682	スタッドボルト, M6 x 82	2
18	55683	マフラーガスケット	1
19	55684	マフラーASSY	1
20	55685	フランジ付六角ボルト, M6 x 75	1
21	55553	フランジ付六角ナット, M6	4
22	55554	スタッドボルト, M6 x 87	2
23	55686	インシュレーターガスケット	1
24	55687	インシュレーター	1
25	55688	キャブレターガスケット	1
26	55689	キャブレターASSY, DG27	1
27	55559	ステッピングモーター	1
28	55506	スクリュ, M4 x 6	4
29	55690	クランプ, $\Phi 9.7 \times 8$	1
30	55691	燃料ホース, 295L	1
31	55692	インテークマニホールド	1
32	55564	クランプ	1
33	55693	シリンダーヘッドガスケット	1
34	55566	ダウエルピン, $\Phi 8 \times 12$	2
35	55694	プッシュロッド	2
36	55695	バルブ, EX	1
37	55696	バルブ, IN	1
38	55697	バルブリフター	2
39	55698	ピストンリングセット	1
40	55699	サークリップ	2
41	55700	ピストンピン	1
42	55701	ピストン	1
43	55702	コンロッドASSY	1
44	55703	クランクケース	1
45	55704	センサー, オイルレベル	1
46	55578	フランジ付六角ボルト, M6 x 16	2
47	55579	フランジ付六角ボルト, M6 x 12	9
48	55705	クランクシャフト	1
49	55706	カムシャフト	1
50	55707	ガスケット, クランクケースカバー	1
51	55708	クランクケースカバー	1
52	55709	フランジ付六角ボルト, M6 x 25	8
53	55585	オイルレベルゲージASSY	1
54	55710	トリガー	1
55	55711	オイルシール, $\Phi 25 \times \Phi 41.25 \times 6$	1

No.	品番	部品名称	使用数 / 台
56	55712	ステーターコイルASSY	1
57	55713	フランジ付六角ボルト, M6 x 38	3
58	55714	クーリングファン	1
59	55715	スタータープーリー	1
60	55716	フランジ付六角ナット, M14 x 1.5P	1
61	55717	ファンカバーASSY	1
62	55718	ファンカバー	1
63	55719	エアーフィルター	1
64	55720	エアーフィルターカバー	1
65	55721	ローター	1
66	55722	リコイルスターターASSY	1
67	55723	オイルスロワーギヤ	1
68	55600	ロックナット	2
69	55724	イグニッションコイル	1
70	55725	ベアリング, 6205E	1
71	55726	セルフタッピングスクリュー, ST4.8 x 20	2
72	55727	ガスカート, シリンダーカバー	1
73	55728	エアガイドカバー, リヤ	1
74	55729	エアガイドカバー, フロント	1
75	55730	クリップベース, 1	1
76	55731	クリップベース, 2	1
77	55732	セルフタッピングスクリュー, ST4.2 x 16	6
78	55733	リヤカバーブロック	1
79	55734	キャップバルブアジャスト, EX	2
80	55623	フランジ付六角ボルト, M6 x 12	2
81	55735	ウェーブワッシャ, $\Phi 14.2 \times \Phi 21 \times 2$	1
82	55736	クリップ	1
83	55737	フランジ付六角ボルト, M6 x 45	3
84	55738	ワイヤクリップ	2
85	55739	ダウエルピン, $\Phi 10 \times 16$	2
86	55740	皿ボルト, M6 x 45	1
87	55741	セルフタッピングスクリュー, ST4.2 x 25	5
88	55742	ウインドガイド, 1	1
89	55743	ウインドガイド, 2	1
90	55744	ワッシャ, $\Phi 21 \times \Phi 14.2 \times 0.5$	2
91	55625	ステッピングモーター, チョーク	1
92	55745	TEMPセンサー	1
93	55746	モジュール, セルモーター	1
94	55747	カバー, モジュール	1
95	55748	ガイドブッシュ	2
96	55749	フランジ付六角ボルト, M6 x 22	2


株式会社 **デイトナ**
東証スタンダード上場

<https://www.daytona.co.jp>

〒437-0226 静岡県周智郡森町一宮4805

**転載
禁止** 本取扱説明書の内容の一部、
または全ての無断転載を禁止

何かお困りの際は、下記窓口までお気軽にお問合せください。

 お問い合わせ先(ナビダイヤル) **0570-055-819**

 インターネット受付窓口 <https://www.daytona.co.jp/contact/form.php>

●当社営業日のみ受け付けております。受付時間10:00-17:00(月～金)
※祝祭日、当社研修等の臨時休業日を除きます。



● リコイルスターターによる始動 補足説明

【セルスターター及びバッテリーについて】

- ▶この発電機はセルモーターとオートチョークを作動させる為にバッテリーを搭載しています。
- ▶このバッテリー充電はエンジン作動後開始し、過充電にならないよう充電量を制御しつつ、満充電になると充電回路を遮断します。
- ▶アース端子を接続後は、バッテリーが自然放電しますので、満充電時でも約3ヶ月である可能性があります。
- ▶また、メインスイッチの切り忘れで、約1ヶ月であります。定期的にエンジンを始動させバッテリーを充電してください。

【バッテリー上がり時の対応】

- ▶バッテリーがあがっている場合は、必ずリコイルでエンジンを始動させてください。
- ▶約20分のエンジン作動でセルモーター3回作動分の充電は出来ます。約3時間の連続エンジン作動で満充電になります。
- ▶なお、バッテリーが上がっているとオートチョークが作動しませんので、リコイルでのエンジン始動が困難な場合があります。
(特に寒冷時) その場合は、下記の手順でチョークを手動操作してください。


- ①. オイル側パネルカバー(エンジンオイル点検口側)のネジ4ヶ所を緩めて外します。
- ②. キャブレター上部のエアークリーナー側にチョークバルブがあります。手動でチョークを動かしてからリコイルでエンジンを始動させます。



◎ 詳細についてはこちらのQRコードから動画がご覧できます。



※もしこの方法で、エンジンが始動できない場合及び、バッテリーが充電されない場合は
下記窓口までお気軽にお問合せください。

 お問い合わせ先(ナビダイヤル) **0570-055-819**

 インターネット受付窓口 <https://www.daytona.co.jp/contact/form.php>

◎当社営業日のみ受け付けております。受付時間10:00-17:00(月~金)

※祝祭日、当社研修等の臨時休業日を除きます。

